

**平成 28 年度新宿区外部評価委員会第 3 部会
第 6 回会議要旨**

<開催日>

平成 28 年 8 月 8 日（月）

<場所>

本庁舎 6 階 第 3 委員会室

<出席者>

外部評価委員（5 名）

名和田是彦、小池玲子、小菅知三、林直樹、安井潤一郎

事務局（2 名）

池田主査、榎本主任

<開会>

【部会長】

ただいまより、第6回新宿区外部評価委員会第3部会を始めます。

それでは、本日は評価の取りまとめです。

今まで、ヒアリングを行ってきましたが、ヒアリングを受けて出された各委員の評価を、部会としての評価にまとめていきます。部会長から指名された委員は、ご自分の意見の補足説明等をお願いします。

では、計画事業21「スポーツ環境の整備」についてです。

この事業は評価が分かれていますので、「適当でない」と評価した委員から問題提起をお願いします。

【委員】

私は、総合運動場の整備が目標値も含めて「検討」続きで、いまだ「整備完了」に至っていないのに、目的の達成度が高いという内部評価に疑問を持ちました。

【部会長】

総合運動場の整備がずっと「検討」となっていて、これはどういうことなのかということですね。

【委員】

戸山多目的運動広場は都のものですから、こうした整備を行うにしても非常に時間がかかるのでしょうか。

【部会長】

ほかの委員からも、相手のあることだから、なかなか難しいという意見が出されています。

私としては、できれば数値目標を設定してほしいという思いがありますが、そうせざるを得ないような事業もあるとは思いますが。ほかの委員はいかがでしょう。

【委員】

「検討」ということについては、これから先に進んでいくという意味として捉えました。

「検討」が長過ぎないかということは、確かにそう思いますが、多目的運動広場をどうするかという検討であるとするならば、それは致し方ないという気がします。

【委員】

都との折衝はなかなか難しいと思います。

【委員】

進捗状況ですが、数字で表すことは難しいでしょう。

事業として見れば、スポーツ・文化活動を通じて、区民の生活の質の向上に役立てるということですから、必要な事業だと思います。当面の推移を見ていかないことには、現時点で適不適を論ずることは難しいと思います。

【部会長】

私としては、数値目標がないことをずっと疑問に思っていました。それでも「適当である」としたのは、今後の取組方針として、スポーツ実施率の向上を挙げていたからです。

総合運動場の整備とスポーツ環境会議の開催という内容からは、事業の目的がつかみにくいのですが、区民が身近にスポーツに接する環境を整えるという方向性に進んでいくということです。そのことに期待して「適当である」としました。

さて、結論はどうしましょうか。

【委員】

目標値を単に「検討」などとするのではなく、例えば、障害者や高齢者、子どもが運動しやすいものとなるよう検討するというように、どのように整備するかが明確になっていけばよかったと思います。

【部会長】

そうであれば、適切な目標設定のところで問題提起をすることが考えられます。単に「検討」とするのではなく、様々な方が個々の目的やレベルに応じて多様なスポーツ・文化活動に親しめる環境を充実させるという目的にふさわしい目標設定というと、スポーツ実施率の向上がふさわしいのではないかと、といった問題提起になると思いますが、いかがでしょう。

【事務局】

補足ですが、第三次実行計画からは、スポーツ実施率が指標として設定されています。

【委員】

実績としては、「検討」とされているものの、庁内で「戸山公園箱根山地区多目的運動広場活用検討委員会」が立ち上がりましたから、それは一つの大きな成果だと思います。

【部会長】

今、委員がおっしゃったように、検討会を立ち上げただけでも大きな成果であり、指標の設

定については現状のままで致し方ないということもできるかと思いますが、この事業の目的に照らすと、アウトカム指標の設定があってもいいのではないかとと言えます。

さて、評価としてはいかがでしょうか。色々悩むところではありますが、第三次実行計画からは、スポーツ実施率の向上といったアウトカム指標が設定されているということですので、全て「適当である」とした上で、指標の改善や事業目的の明確化といった意見を付していくということではいかがでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

次は、計画事業75「ものづくり産業の支援」です。

この事業は評価が分かれておらず、全て「適当である」となっています。

また、意見の不一致もないようなので、このまままとめていくという形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

次は、計画事業76「高田馬場創業支援センターによる事業の推進」です。

この事業は評価が分かれています。「適当でない」とした委員から問題提起をお願いします。

【委員】

私は、指標1「創業者数」の目標値が気になりました。毎年度5人から6人を目標としていますが、もっと増やしていくことは考えられないのでしょうか。

【部会長】

確かに、実績としては、毎年度、目標値を超えて推移していますので、そのように考えるのも理解できます。

ただし、長期的な視野で取り組んでいく必要があるというほかの委員のご意見もありましたので、目標値を理由に「適当でない」とするのは難しいと思いますが。

【委員】

そうですね。

【部会長】

では、全て「適当である」とした上で、今あるご意見をまとめていきましょう。

<異議なし>

【部会長】

次は、計画事業79「にぎわいと魅力あふれる商店街支援」です。

この事業は評価が一致しており、どなたも全て「適当である」としており、意見も一致していますから、このまままとめていけばよいと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

次は、計画事業80「環境に配慮した商店街づくりの推進」です。

この事業も評価が一致しています。どなたも全て「適当である」としており、意見も一致していますから、このまままとめていけばよいと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

次は、計画事業81「商店街空き店舗活用支援融資」です。

この事業は評価が分かれています。「適当でない」とした委員から問題提起をお願いします。

【委員】

「達成度が低い」や「計画以下」と内部評価しているのに、「効果的・効率的」とするのはおかしいと思い、「適当でない」としました。

【委員】

私は、外部環境をいくら整えても、それぞれの利用者の事情を汲まなければ机上の空論に終わってしまうと思いました。融資制度を変えても、制度の利用が増えるとは思えませんでした。

【部会長】

この事業は、所管課としてもかなり厳しいと考えていて、「達成度が低い」や「計画以下」と内部評価しています。そして、今後どうしていくかということ、「事業統合」ということです。そういった内部評価が適切かどうかということがまず一つあると思います。

もう一つは、「達成度が低い」としているのに、「効果的・効率的」と言えるのかということがあります。

【委員】

信用保証料と貸付利子を補助したからといって、利用が増えるとは思えません。もっと違う方策を考えたほうがいいのではないのでしょうか。

【委員】

本当に色々な要因があると思うのです。

【委員】

「計画以下」という内部評価については、「適当である」と考えます。

今、補助金の話が出ましたが、補助金を交付するだけでは、なかなか利用は増えていきません。空き店舗を貸し出さないことの理由は色々あるのですが、治安の面から言えば、人の多い商店街の方が、圧倒的に良いです。

【部会長】

「事業統合」という方向性については、どのようにお考えですか。

【委員】

今までは、貸主と借主とで分かれていましたが、これらを一つにするという意味で「事業統合」としているのだと思います。少しは期待できるのではないのでしょうか。

【部会長】

この融資制度の対象については、NPOなどは含まれないと聞きましたが、空き店舗にNPOなどが入っても、あまり歓迎されないのでしょうか。

【委員】

商店街は人を集める、来街者をふやすことが仕事ですから、そういう意味では歓迎されないということはないと思います。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、そろそろ評価をまとめていきたいと思いますが、「事業統合」という方向性については、有効ではなかろうかというご意見がありました。その上で、先ほどから意見が出されているとおり、空き店舗を貸さないという事象には様々な要因があるので、それについて有効な手立てを考えていただきたいという意見でまとめることができると思います。

そして、評価ですが、「効果的・効率的」とした内部評価をどう捉えるかということがあります。

【委員】

区と金融機関が役割分担を明確にして事業を執行しているということであり、そのこと自体は「効果的・効率的」と考えていいのではないのでしょうか。

【部会長】

では、この事業については全て「適当である」ということにして、先ほどの意見を付すことにしましょう。特に、事業の方向性については、「事業統合」の有効性に期待をするものの、空き店舗の貸出を行う意志が低いことに対する方策を検討すべきであるという意見を付しましょう。このようなまとめ方でいかがでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

次は、計画事業73「文化・歴史資源の整備・活用」です。

この事業は評価が一致しています。どなたも全て「適当である」としており、意見も一致しています。なにか補足はありますか。

【委員】

様々なイベントを行っているようですが、どのイベントも無料なのです。記念館の建設等にお金がかかるのだから、できるだけ参加料などを徴収したほうがいいと思います。建設後には、維持費もかかりますから、ある程度積極的に資金を確保しないといけないのではないのでしょうか。

【部会長】

そうですね。今のご意見は、「第二次実行計画期間における総合評価」のところに記述するとしましょう。

【委員】

寄附を記念館の建設等に充てるということですが、目標金額の2億円まで全然到達していませんから、このような意見を書くのはいいと思います。

【委員】

一人ひとりに寄附を募るより、大きなスポンサーを見つけるほうが早道ではないでしょうか。

【委員】

どういった方が寄附しているのかを見たことがありますが、企業なども寄附していますよ。

【部会長】

では、まとめ方としては、先ほど申し上げたような形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

次は、計画事業74「文化体験プログラムの展開」です。

この事業は評価が分かれています。「適当でない」とした委員から問題提起をお願いします。

【委員】

内部評価における「文化」の概念がややあいまいであったため、そのことを指摘する意味で「適当でない」としました。

そうは言いながらも、事業としては非常に有益なのだろうと思いますが。

【部会長】

事業目的を見ると、気軽に様々な文化や芸術に触れる機会を提供するというのが趣旨のようです。ほかの委員はいかがでしょうか。

【委員】

私も、この事業に対して非常にたくさんの疑問を持ちました。この事業の位置付けが、子どもも楽しめるような娯楽性の高いところにあるのか、文化の継承といったところにあるのか分からないのです。

区民の生活を豊かにするという観点はいいいのですが、釈然としない部分がありました。

【部会長】

関係法令として、「新宿区次世代育成支援計画」が挙げられています。つまり、次世代育成も視野に入れているのです。気軽に文化に触れられるということもありますが、次世代育成という観点もあって、気軽にバルーンアートを楽しむということもあれば、伝統芸能に触れるという機会も用意されています。そういったものが混在しているために、事業の趣旨が分かりにくいという点については理解できますが。

娯楽性の高い、人気のあるプログラムだけではなく、伝統芸能なども体験していただきたいので、こういったプログラム構成になっているということを以前伺いました。

【委員】

確かに、そういった意味では、幅広い構成だと言うことができます。

【委員】

伝統芸能を体験する貴重な機会を提供する事業だと考えれば、是非奨励すべきだと思います。ですので、私としては、内部評価は「適当である」と考えます。

【部会長】

それでは、様々な文化を体験してもらうという事業の趣旨をご理解いただけたようなので、

評価としては「適当である」とし、今出てきたような意見をまとめていくということによろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

次は、計画事業77「新宿の魅力の発信」です。

この事業は評価が分かれています。「適当でない」とした委員から問題提起をお願いします。

【委員】

たくさんの発行物があり、いずれも丁寧に作られていると思いますが、新宿らしさがないという印象を持ちました。

また、たくさんの種類の発行物がありますが、それぞれ誰を対象にしているかが不明確であり、それぞれの差別化ができていないように思います。発行物の作成には非常にたくさんの経費がかかると思いますので、その点について気になりました。

【部会長】

今の問題提起ですが、新宿の魅力発信という事業なのに、新宿の魅力を発信するような組み立てになっているのかということだと思います。それを軸にご議論いただきたいと思います。

【委員】

経費面について、外部評価委員の立場から発言してもよろしいのでしょうか。

【部会長】

基本的には、各事業の予算というのは区議会の議決により決定されますので、それを尊重するというのは当然です。しかし、例えば、それが効果的・効率的に使われているのかということについては、区民の目から見て感じた意見や疑問を率直に言っていただいて構いません。

【委員】

発行物の差別化ということもありますが、その一方で、新宿ブランドとしての統一感がないことも気になりました。新宿の魅力を発信していくためには、一つの共通した「新宿らしさ」があるべきだと思うのです。

【委員】

私は、こういう類の冊子を作っている立場ですが、統一感というような発想はありませんでした。観点としては非常に大事だと思いますが、そのことをもって内部評価を評価するということは難しいと思います。

【委員】

新宿の魅力の発信ということを目的とするのであれば、それがより一層届くように工夫しなければいけないと思うのです。様々な発行物を出したとしても、どこか一点に統一感を出すことで、人の心の中に新宿のブランドイメージを積み上げていくべきだと思います。そういう意味で、今の発行物で効果的に発信ができているのかと疑問に思います。

【委員】

確かに、委員のおっしゃるとおりです。

これだけの種類の発行物の作成には、多額の費用がかかっていると思います。

【部会長】

費用対効果があるのかということですね。

【委員】

私が一番に言いたいのは、経費面のことではなく、新宿のブランドイメージを確立するような事業展開をしてほしいということです。

【委員】

そうであれば、内部評価を「適当でない」とするのではなく、「適当である」とした上で意見を付すにとどめたほうがいいのではないのでしょうか。

【委員】

それから、印刷物が多いというのは、新宿では仕方のないことではないのでしょうか。新宿の主要な地場産業が印刷業ですから。

【部会長】

では、そろそろまとめに入りたいと思います。

今までの意見をまとめると、評価については「適当である」としながらも、事業の方向性のところで新宿のブランドイメージや費用対効果の点についても言及するというまとめ方がよいと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

次は、計画事業82「平和啓発事業の推進」です。

この事業は評価が一致しています。どなたも全て「適当である」としており、意見も一致しています。なにか補足はありますか。

【委員】

私は区民として、こうしたことに積極的に関わっていく必要があると思い、そのような意見を書きました。

【委員】

平成27年度の事業経費が、過去4年間の中で突出していますが、これは何かあったのでしょうか。

【事務局】

補足させていただきますが、平成27年度は、平和都市宣言30周年に当たります。そのため、例年に比べて記念事業として大規模なイベントを実施したため、ほかの年度に比べて事業経費が多くなっています。平和啓発事業への参加者数が平成27年度だけ非常に多くなっているのも、それによるものです。

【委員】

分かりました。

【委員】

出前講座などを行っているのでしょうか。

【事務局】

補足させていただきますが、平和の語り部派遣と言って、小学校などに出向いて戦争体験者の方にその体験を話してもらうということを実施しています。

【委員】

そういう取組を実施しているのであれば、もっと積極的に展開してほしいです。

【部会長】

では、今出たご意見を中心にまとめていくということでよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

それでは、本日はこれで閉会とします。ありがとうございました。

<閉会>